

事業名；日本の僻地で働く医療従事者の医療教育事業

実行団体；NPO 法人胃癌を撲滅する会

代表理事；鴨川由美子

本法人は胃癌の多発する地域の医療関係者に胃癌診断の内視鏡技術を伝授し、胃癌の主原因であるピロリ菌の除菌を推奨し、胃癌死を減少させる事を目的に設立されました。胃癌は早期に発見治療すれば完治が望め、ピロリ菌除菌によって予防することも可能な癌です。今回の助成によって胃癌の診断治療技術と対策のノウハウを上級医のいない僻地で働く若年の医師らに伝え、僻地の医療水準をあげ、地域の人々の健康に貢献する事を目的とし活動しました。新型コロナウイルスの蔓延により、医師間の移動を伴った交流は学会も含め制限されています。これらのことを鑑みて、本年度は医療指導を受けづらい僻地の若年医師に対し、インターネットを通じた自己学習が可能となる、e-learning をホームページ上から無償で提供し、また胃癌関連診断治療の助けとなる動画をホームページ及び You-tube から無料で配信しました。実際に4本の胃癌関連の教育動画を作成し、9月末の時点でその再生回数は You-tube の解析によると100~800回(動画により異なる)が再生され、e-learning は2020年度の合計で1300名(うち日本人は22名)の参加者がありました。e-learning は実際の目標値(30)への伸びがなかったのは、通常年であれば、医学学会でポスターやチラシなどで活動を周知することが可能なのですが、コロナのため学会が中止もしくはZOOMで行われることが多く、参加者に紙媒体での告知ができなかったことによると考えます。そのため途中で方針を変更し、全国の医師に身近でアプローチしている製薬会社のMR(医薬情報担当者)へ会の活動のチラシを配布してもらう方法に変更しました。この配布にも倫理委員会の承認が必要であったため日時を要し、開始できたのは7月以降でした。さらに e-learning 参加者を促すため、期間限定で参加者中から抽選で著者サイン入り内視鏡読本の謹呈キャンペーンを開始しています。無償で教育を提供しても、活動を知ってもらわねばリーチしてはもらえず、今後の課題として活動の広報に力を入れることを考えています。また遠隔ZOOMによる症例検討会を考えましたが、コロナ禍で医師らとその対応に多忙で時間調整が困難であったことよりこれらの企画は実現していません。将来本活動の広報と共に要請があれば対応していく方針です。